

## 平成19年度第2回 函館市観光アドバイザー会議 会議録

- 1 日 時 平成20年3月17日(月) 14:00～15:30
- 2 場 所 函館市勤労者総合福祉センター(サン・リフレ函館)2階大会議室
- 3 参集者 番匠座長, 星野部会長, 坂本委員, 吉田委員, 刈田委員, 丸藤委員, 鎌鹿委員, 松木委員, 二本柳委員  
(9名出席)
- 4 内 容
  - (1)開 会
  - (2)座長挨拶
  - (3)報告事項
    - ・コンベンション先進事例調査結果について
    - ・「光の小径」実証実験結果について
    - ・平成20年度の観光関連予算について
  - (4)討 議
    - 番匠座長
      - ・事務局から報告された事項について何か質問があればいただきたい。まずは,コンベンション調査について同行した吉田委員に感想をお願いしたい。
    - 吉田委員
      - ・コンベンション施設の立地に関しては,2次交通,3次交通が必要な場所は避けた方が良いと感じた。岡山の場合は,駅のすぐ近くに施設があった。また,長崎では,交通の要所に建てた方が良いということと,大規模施設は収支が合わないのでは,必要ないのではないかという意見をいただき,これから函館がコンベンション施設の建設を検討する際には,そのような点を十分に踏まえたうえで検討してはどうかという示唆をいただいた。
    - 番匠委員
      - ・コンベンションの開催予定について,常に把握し,受入側から具体的な提案をする力がないと誘致するのは難しい。
      - ・岡山では,医科大学関連のコンベンション開催回数が多く,規模が非常に大きい。函館の場合を考えると,2,000人規模のコンベンション誘致は難しいと思われるので,大規模な施設は必要ないのではないか。コンベンションの核施設を駅周辺の中心地に立地し,周辺のホテルを活用するのが函館

の身の丈にあったコンベンションのあり方ではないか。あまり駅から離れているのは良くない。それを踏まえると、湯の川地区では地理的に難しいのではないだろうか。湯の川温泉を有効活用するには、その施設で何でもできるくらいの機能がなければ、コンベンションの誘致・開催は難しい。

- ・現状の函館がしなければならないことは、まずは開催状況の把握をしたうえで、どのようなコンベンションを誘致できるのかを見極めて、そのうえで、施設をどの程度の規模にするか、場所をどこに設定するかを考えた方がよい。
- ・函館の特性として、札幌や青森から離れており、周辺に大きな都市がないということがマイナスに働いていると感じた。
- ・では他の委員の皆様からご意見等ございましたらいただきたい。

#### 星野委員

- ・岡山のコンベンションセンターでは、他のコンベンションセンターの状況をしっかり把握しており、マーケットやPR方法についても、筋道がはっきりしていた。
- ・コンベンション誘致にあたっては、多様なニーズに対応できるノウハウの蓄積があるかどうか重要。コンベンション誘致に関して、苦労した経験がある方々が多くいると思うが、そのような苦労した点をノウハウとして集約し、蓄積していくことが重要である。
- ・新年度は市の観光コンベンション部に、コンベンションを専門とする担当部署ができるので、コンベンション協会との役割分担をし、ノウハウや誘致受入の進め方、各種の情報を集積して欲しい。

#### 丸藤委員

- ・調査した各施設の年間利用者数や、施設があることで入込客数がどれだけ増えたか、といった情報はないのか。

#### 事務局

- ・コンベンション開催の際の宿泊を伴うものに対する補助金制度があり、そこからある程度状況把握することは可能と思うが、詳細な参加来場者数についてカウントされておらず、正確な数字は教えていただけなかった。

#### 鎌鹿委員

- ・今後、函館がコンベンションの誘致宣伝活動を行うにあたり、情報収集はもちろんだが、観光情報の提供で、紙媒体（パンフレット、グルメマップ、クーポン等）を用意してみると取り組むべき方向性が見えてくると思う。

- ・施設整備については、交通アクセスを考えて駅に近いといったこともあるが、もう一つ拠点として空港周辺や、湯の川温泉地区も考えられると思う。
- ・トータルで考えた場合、市民会館の稼働率をもう少し上げることや、既存の施設を使っていくことも考えなければならない。将来の函館圏ということを見ると、七飯町や北斗市にある施設の活用も含めて議論すべき。

#### 番匠座長

- ・函館で開催される可能性があるコンベンションの情報収集は、1、2年で早急に取り組んでほしい。可能性のあるコンベンションの規模、回数、経済力（消費金額）の見極めをしないと、今後の議論に繋がらない。

#### 事務局

- ・建物の規模など施設に関することは、企画部が中心となり検討している。新設の観光コンベンション部としては、ソフト面について取り組みを展開するもので、今回の事例調査もその一環であるが、今後において、企画部と連携を強化し、この調査報告書を活かしていく。
- ・学会等のコンベンション誘致では、まずは地元に関連するネットワーク作りを重点的に行いながら、全道・全国大会規模のコンベンション誘致に波及させたいと考えている。
- ・4月から商工観光部を2つに分け、新設の観光コンベンション部にコンベンションについて専門に扱う課ができるので、攻めの手法で、これまで以上に力をいれて誘致活動を展開する。

#### 吉田委員

- ・コンベンションを開催することが多いのは、学術研究機関や大学などのコンベンションと思うが、岡山の例をみると、各関係の有力者とのネットワークができており、地元の人脈を大事にしている。函館においても、まずは地元の産学官の人脈を作っていくことが重要。今後は、行政と観光協会が互いの役割を整理し、コンベンション誘致活動をしていく必要がある。

#### 番匠座長

- ・学会関連のコンベンションは、2年先まで開催先が決まっているもの。それ以降がどうなるのかは、過去の事例を検証すると、次にどこで開催するかの予測がある程度できる。そこまでデータを収集して誘致活動を行っていかなければ、誘致活動先を間違ってしまう恐れがある。
- ・施設は、2千人規模が欲しいという声があるが、函館で開催出来る範囲というものを考えると、ある程度限定されてくるものと思う。

#### 二本柳委員

- ・コンベンションホールの規模に関して、今の函館のホールに何が足りないのかと考えると、展示室や懇親会の場所だと思う。コンベンションに必要なものは固定席の数ではなく、多目的に使える箱である。
- ・場所に関しては、2、30年後の将来の町づくりを見据えた位置づけが必要。今後、人口が減り、小さなエリアの中で町を考えていかなければならないが、町の中心となるところに施設を建てるべき。これらのことを踏まえて議論を重ねていくべきだ。

#### 番匠座長

- ・展示スペースについては、岡山の施設は、各ブースの天井にコンセントがあり、電源はいくらでも使えるという素晴らしい施設であった。

#### 二本柳委員

- ・展示ホールであれば、コンクリートの土間でも十分。懇親会についても、多目的ホールがあれば、ケータリングなどを利用し1回に集まってできる。
- ・他都市では取り組んでいない、特色のあるものを函館市として考えていった方が良く考えている。

#### 刈田委員

- ・コンベンションホールに定型はない。決める基準は立地条件や予算もあるが、展示するスペースがないならば、外にテントを張るなど、臨時で設置することもできるし、施設の中に全てを納める必要はない。また、ブースは最低2つあれば十分だと思う。
- ・人材については、沖縄コンベンションビューローは、職員130人のうち大半は営業活動を行っており、東京や大阪、京都などに在中し、東京の事務所と連携して誘致活動に取り組んでいる。情報を豊富に持っている旅行会社などとの人脈をつくるのが一番大切である。人づくりが不可欠だ。

#### 番匠座長

- ・光の小径や観光関連予算についての意見も伺いたい。

#### 丸藤委員

- ・まちづくりセンターでは、韓国や台湾などから来た外国人観光客からマップを欲しいといわれる。是非ハングル語などによる外国人対応マップを作成して欲しい。
- ・両替所についても聞かれるが、札幌に行かなければならない状況。両替所や国際電話を気軽に出来る場所も欲しい。観光客にがっかりされることが多い。

#### 事務局

- ・市では、東アジア地区での観光客誘致プロモーションなどを実施し、外国人観光客増加に向けた取り組みを進めており、ご指摘のマップに関しては、できるだけ早く対応したい。

また、両替所については、空港と銀行以外ほとんどないのが状況であるが、ホテルでの対応が可能かどうかも含めた検討を進めていきたい。

#### 星野委員

- ・外国人観光客の多くは、現金ではなく、クレジットカードを使用するが、函館ではクレジットカードが使えるところが少ないため、困っているというのが実態ではないか。観光客がリピーター化している中、自由行動する人達が、どこに不便さを感じているのかを調査してはどうか。
- ・韓国人観光客実態調査は、なぜ韓国人だけなのか。函館を訪れた外国人観光客数は空港で把握できるが、その後どこに行き、どこから帰るのがわからない。
- ・個人の外国人観光客は、定番の土産屋ではなく、一般のスーパーマーケットで買い物をしているようである。マップを作る際には、外国人観光客がどこに行きたいのかをしっかりと把握してから作成するべきだろう。
- ・函館は外国人観光客の来訪への期待度が高いので早急な対応が望まれる。

#### 事務局

- ・両替の問題にしても、国内全体の外国人観光客受入体制がまだまだ不十分であり、相対的に日本は遅れていると感じている。函館も、アフターサービスなどを強化していかなければ、海外から多くの観光客を受け入れることは難しいと感じており、積極的に改革する必要があると考えている。

#### 丸藤委員

- ・冬の南部坂は、凍っていて滑りやすく、外国人観光客にとっては、凍った坂を登ることは危険だ。歩道だけでも凍結防止の対応ができないか。

#### 吉田委員

- ・観光駐車場から上に向かう歩道は、ロードヒーティングがされているが、南部坂の下の方は、残念ながらロードヒーティングがされていない。
- ・外国人向けガイドマップは、観光案内所に設置されているものがある。まちづくりセンターで、設置する分についても早急に確認したい。

#### 丸藤委員

- ・日本人観光客は、雑誌やインターネット等で各種情報を調べてきており、

観光マップはあまり必要ない。外国から来る人に対してこそ、無料でマップを配布するべき。

#### 星野委員

- ・大半は、空港に着いた時に、マップを入手していると思うが、まち歩きをしている途中でマップが欲しくなった場合には、まちづくりセンターがちょうどよい拠点となると思う。

#### 鎌鹿委員

- ・観光ポータルサイトを構築する際には、古い機種のパソコンにも対応できるような配慮をしてほしい。
- ・地域ブランドについては、まだまだ地場のものが少ないと感じている。道の駅や物産といった関係は改善するべき点が多い。
- ・接客に関しても、道の駅などはレンタカーを借りた際の立ち寄り先になるので、笑顔で迎えるくらいはしないと観光地としては取り残される。

#### 二本柳委員

- ・観光マップの種類が多すぎる。同じバージョンで外国向けにするなど、統一していくことも一つの方法ではないか。
- ・観光ポータルサイトについては、フリーで来る観光客に対して、着地型の観光窓口の機能を考えていけないか。外国人観光客もリピーター化しているので、個人客に対応し、函館に着いてからの体験型や着地型の観光メニューを案内する窓口を作っていくことが重要である。
- ・他都市で取り組んでいないことを函館で取り組む。例えばオンパクや体験型観光を一括で取り扱うコンシェルジュの機能を持っているところがないので、早急に作っていくことが重要だろう。

#### 番匠座長

- ・各委員の皆さんからご意見を頂いたところで、本日の会議はこれで終了したい。

#### 事務局

- ・部が新しくなるが、引き続き観光アドバイザー会議についてよろしく願いしたい。

本日は大変ありがとうございました。

(会議終了)